

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社ウェルファムフーズ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒102-0074 東京都千代田区九段南二丁目1番30号	
本票作成	部署名：リスクマネジメント部				
主たる業種	分類コード	09	業種名：食料品製造業		
事業の概要	ブロイラーの肥育、処理、加工 岡山事業所従業員数：238名（2020年3月）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山事業所岡山工場		新見市西方1567	
	②	岡山事業所 吉家E農場		高梁市備中町西山2415	
	③	岡山事業所 足見A農場		新見市土橋37	
	④	岡山事業所 足見B農場		新見市足見2177	
	⑤	岡山事業所 吉家B農場		高梁市備中町西山2540-2	
⑥	岡山事業所 豊永A農場		新見市豊永赤馬3240-1		
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 26 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 ( 5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 5.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準						○	
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 元 年度)			目標年度 (令和 6 年度)					
	14,703 t CO <sub>2</sub>			16,023 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 元 年度) の排出量					
	①	岡山事業所岡山工場		6,966 t CO <sub>2</sub>					
	②	岡山事業所 吉家E農場		705 t CO <sub>2</sub>					
	③	岡山事業所 足見A農場		532 t CO <sub>2</sub>					
	④	岡山事業所 足見B農場		363 t CO <sub>2</sub>					
	⑤	岡山事業所 吉家B農場		306 t CO <sub>2</sub>					
⑥	岡山事業所 豊永A農場		305 t CO <sub>2</sub>						

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 岡山工場の生鳥処理重量 (トン)	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		0.416 t CO <sub>2</sub> / (トン)	0.395 t CO <sub>2</sub> / (トン)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 元 年度)	達成率 (%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

- ・生産量増強を計画しているため、総排出量の削減は困難であり、原単位での削減計画とした。
- ・原単位の分母は、岡山工場の生鳥処理重量。  
省エネ法で国に報告しているもので、生鳥の肥育にも関連していることから選定した。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

- ・岡山工場を運営する製造部では2020年度、エネルギー管理士の資格を取得（1名）。農場部ではエネルギー管理員有資格者を配し、省エネルギーに取り組んでいる。

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
岡山事業所 製造部 (岡山工場)	・タイマーによる空調設備の制御を継続し、夏場の電力使用量削減に取り組んでいる。
岡山事業所 農場部	・鶏舎で使用する換気扇について、消費電力が従来型の1/3程度のタイプ（スマートファン）を導入した。 ・老朽化した屋根の張替えにより、鶏舎の断熱を強化し、結露防止と冬場の保温を実現。

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
岡山事業所 製造部 (岡山工場)	・既存照明のLED化を順次進めていく。 ・機械設備の老朽化に伴う入替や、新規導入の際には、省エネ性能の向上も選定基準のひとつとする。
岡山事業所 農場部	・引き続き、老朽化した鶏舎の断熱強化を順次行う。 ・建設する鶏舎は、断熱能力の高いものとし、鶏糞原料のバイオマスボイラーで床暖房を実施する予定。 ・2018年度以降、鶏舎1棟に温湿度センサー、CO <sub>2</sub> センサー、Webカメラを設置し、データを蓄積中。エネルギー管理含め、最適な管理への検討を継続していく。 ・鶏舎内の照明LEDを、省エネタイプに順次交換予定。

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

--